

第3回富田林市観光ビジョン策定委員会

日時	令和元年6月4日 午後2時～
場所	富田林市役所3階 庁議室
委員	出席：和泉会長、橋川副会長、阪口委員、瀬川委員（代理）、柴田委員、酒井委員、赤崎委員 欠席：松井委員、畑中委員
事務局	杉分部長、柳田次長兼課長、武部課長代理、佐々木、菅原

■開会のあいさつ

議題1 団体ヒアリングの報告について

<会長>

皆さまのお力を頂戴しながらビジョンの策定を進めてまいりたいと思います。

本日の行うべき案件は、2つでございます。団体ヒアリングの報告についてと富田林市の観光ビジョン骨子（案）が事務局から提案いただく予定となっております。

それでは、限られた時間ではございますが、皆さまのご協力を得まして進めてまいりたいと思います。よろしくお願いいたします。

議題の1つ目でございます、団体ヒアリングの報告について事務局からの説明をお願いいたします。

<事務局>

団体ヒアリングについて説明。

<会長>

ただ今の、団体ヒアリングの結果について、ご意見・ご質問等ございませんでしょうか。

<委員>

報告の中で、寺内町のことも色々と意見を集めていただいています。その中で、現在、富田林市の寺内町そのものが、古い伝建の建物で生活されている生活空間であるというものがあります。

もともと寺内町の住民が重伝建の選定を受ける前には、静かな住環境を第一に考えてほしい、観光化はしてほしくないという意見が非常に多くありました。しかし、20年ほど経って、住民の方もある程度のにぎやかさというものは許容していただいていると思います。

室町以降の古い町並みをなんとか残したいという思いもあり、トイレの案内や重伝建

の建物の案内看板についても、町の雰囲気損なわないようにする必要がありハードルが非常に高いです。看板1つをとっても、焼き板の雰囲気を残したような表示にするなど配慮していますが、建物の板壁（焼杉）に溶け込んでしまって目立たないという課題があり難しいところです。

寺内町の近くに、臨時のバス駐車場を約3台分、確保しましたが、滞在時間そのものが非常に短いです。約1時間40分から2時間でガイドの説明を受けながらまわってもらえますが、その後市内での周遊に繋がらないことは市全体の問題と考えています。

寺内町はバス3台、何とか確保してもらいましたが、錦織神社や楠妣庵観音寺に行っていただくにしても、周辺にバスを停める場所がない。サバーファームや寺内町ではバスの駐車場を確保できていますが、ここだけ受け入れ先ができて不十分なので市内の各地である程度の駐車場の確保ができたと思います。また、拠点を結ぶ公共交通機関でのアクセスが悪いことも課題だと思います。

先日、河内長野市が日本遺産に認定されましたが、市内の拠点を結ぶアクセスをどう確保するか、利便性を高めるためにもどうすればよいか、どこも同じような問題を抱えているような気がします。

<会長>

ありがとうございました。

補足したいこともあるとは思いますが、他の皆さまはいかがでしょう。

<委員>

住んでいる人が多いのは他の観光地と異なる素晴らしいことだと思います。富田林寺内町のステータスが上がってきたことに対するプライドもあり、富田林寺内町にお住まいの方の意識も変わってきているように思います。落ち着きのある町並みを残したいという思いがあるのではないかと思います。

金剛地区に関しては、アクセスの問題もあり、つながりがないためジレンマがあります。寺内町を知らない方もおられるように思います。金剛地区の方にとっても、富田林市に寺内町というところがあることは、シビックプライドにつながる部分にもなると思います。

<会長>

先ほどのご意見のとおり、金剛地区（西側）では寺内町を知らない人がいます。その人に対して寺内町について発信することは、優先順位としては一番高いと思います。市外から観光客の誘致はもちろん考えなければなりません、市内の方々にも寺内町について知ってもらうことについて、しっかり意識すべきだと思います。

意識の変革など見られるものの、寺内町は基本的には生活空間です。ここだけの話ではありませんが、観光公害やオーバーツーリズムの問題も考慮した上で策定して、アクションを起こしていくことが必要ではないかと思います。無理をしない観光という言い方が妥当かはわかりませんが、地域目線を踏まえた取り組みとして観光を考えていくこと

なのではないでしょうか。

バスの問題ですが、ここは3台確保できますが、市全体として、資源と資源をつなげる・広げるという視点も大事にしたビジョンにすべきではないでしょうか。寺内町とサブファームをつなげるのはもちろんですが、それ以外にもつなげていくことが大事であると思います。

日本遺産に認定されますと、ストーリーや関係性の中から、今まであまり認識されていなかった文化財が認識されるなど、新たな発見やつながりが見出されることがあります。観光事業目線でいきますと、ストーリーができると滞在時間が伸びます。滞在時間が伸びることによって飲食等、様々な観光事業の枝葉も広がっていきます。

周遊するコース・資源と資源がつながれば、人と人がつながりますので、つなぐ・広げるということを意識したビジョンにしていきたいと思います。

大学生との連携も考えていきたいです。事業者によっては、ここでしか食べられない物をつくりたいという大変積極的な意見もありました。そういう意見はぜひ取り上げて、その方々が活躍できるようなステージをつくれるようにしていきたいと思います。特産品を用いて試作品をつくるなどの活動をしていただき、そこに集まった事業者さんたちがつながりを持っていただいて新たなアクションにつながっていくようなビジョンを作成しながら、実践的な提案ができればと思います。

議題2 富田林市の観光ビジョン骨子（案）について

<会長>

続きまして、富田林市観光ビジョン骨子（案）について事務局から説明をお願いします。

<事務局>

事前に配付いたしました富田林市観光ビジョンの骨子（案）について事務局よりご説明いたします。

●富田林市観光ビジョン骨子（案）について説明

<会長>

ありがとうございます。

ここまでの、第1幕富田林市観光の将来ビジョンについて事務局から説明がありましたが、皆さまご質問等ございませんでしょうか。

第1幕では、富田林市の考え、想いを綴っています。

<委員>

点と点をつなぐということで資源同士をつないでストーリーを持たせることや、造成を進めることはどこでも出てきますが、具体的に地域の利便さに応じた仕組みを作るなど、民間事業者を巻き込んだところまで進めるように、一步踏み込んだ方がいいのではな

いでしょうか。団体が来て嵐のように去って閑散としないように、来ていただいた方々が何度でも来たくするような地域づくりに重点を置いたほうがよいのではないのでしょうか。

<会長>

ありがとうございます。

民間事業者さんにもう少し歩踏み込んでつながっていくことが地域づくりに大事なのではないかというご意見をいただきました。

他にございませんでしょうか。

<委員>

「第1幕(2) 推進によって達成したいこと」については、こんなことが達成したいのか、どういう方に来てほしいのか、どういう過ごし方をしてほしいのかなど、もう少し具体的にしたほうがいいのではないのでしょうか。(3) めざす観光の在り方については、ターゲットももう少し絞り込んだほうがいいと思います。

<会長>

ありがとうございます。

観光ビジョンの推進によって達成したい姿はもっと具体的な記述が必要なのではないのでしょうかということと、ターゲットについてももう少し絞り込んだ記述が必要なのではないかというご意見をいただきました。

ぜひ達成していただきたいのは、「富田林市のファンをつくる」ということがあります。リピーターをつくることにもつながってくるかもしれませんが、ご当地のファンをつくることを達成していただきたいです。

他にはございませんでしょうか。

<委員>

一番重要なのはターゲットの設定です。どういう方を、というのをしっかりと見据えた上での設定と情報発信といっても、色々な発信の仕方があると思います。そのあたりももう少し詳細に記述したほうがいいのではないのでしょうか。3つ目の、「旅行者」のニーズの変化に伴う、着地型は旅行業界でも話題にはなっていますが、若干形態が変わってきつつあると思いますので、どういう体験型にするのかをもう少し深掘りしてもいいのではないのでしょうか。

<会長>

どこの自治体も着地型とビジョンで書いてありますが、どう差別化するのかについて意識したほうがいいのではないかというご意見でした。

他にはございませんでしょうか。

<委員>

寺内町や楠妣庵など、観光案内の際にも周知しているので理解はしていただいていると思いますが、いざ行くとなった時の実際問題として、非常にアクセスがしにくくお客様

の負担になっているのではないのでしょうか。楠妣庵に行っていたとしても、一度富田林駅まで戻り、シャトルバスを利用しなければいけないので、時間的に難しいため周遊できない人もいます。隠れた歴史ファンも結構おられますので、周辺もあわせた観光資源の案内でアピールできるといいのではないかと思います。

<会長>

ありがとうございます。

アクセスの問題は確かにあります。寺内町やサバーファーム以外の資源についても、まとめていかなければいけないというご意見、ありがとうございます。

他にご意見はございませんでしょうか。事務局から委員の方のご意見を受けて何かございますか。

<事務局>

ご意見ありがとうございます。

ターゲットの設定やアクセスの問題については事務局でも検討しているところです。今回は骨子ということで、ビジョンの方向性をご提示させていただきました。もっと踏み込んだ内容に、というご意見もいただきましたので素案作成の参考にさせていただきます。

<会長>

ありがとうございます。

頂戴しました皆さまのご意見を参考としまして素案に結び付いていく形で進めてまいります。

第1幕につきましては、ご意見がなければ終了とさせていただきます。

では、引き続き第2幕の重点施策について事務局から説明をお願いします。

<事務局>

●骨子（案）第2幕の重点施策について説明

<会長>

ありがとうございます。第2幕の重点戦略については、歴史的資源を活かした観光振興、自然資源を活かした観光振興、外国人観光客の誘致の3つの視点があります。

皆さま、ご意見ございませんでしょうか。

<委員>（ご意見なし）

<会長>

3つ重点戦略ということで顕著に意識する3つの問題ということで歴史的資源、自然資源、外国人観光客はいらっしゃるのので考えなければいけないと思います。分け方は問題ないと思いますが、アクションを起こしていく際に、歴史も自然も関係なくなりますので、課題は歴史的なもの自然的なものは異なりますが、両方一緒に楽しめるような工夫があってもいいと思います。

第2幕につきましては、ご意見がなければ終了とさせていただきます。

では、引き続き第3幕の基本戦略について事務局のほうから説明をお願いします。

<事務局>

●骨子（案）第3幕の基本戦略について説明

<会長>

ありがとうございます。

アクションプランを検討するにあたって参考となるご意見を頂戴したいと思います。

いかがですか。観光情報の発信の強化という部分で何かございますか。

<委員>

富田林市は来ていただいて、歩いていただいて、感じるまちだと思いますので、そういう方々に向けて発信するのに最適な仕方、媒体を考えたほうがいいと思います。魅力が発信できる事業者へのアプローチの検討にも注力すると思います。

<会長>

ありがとうございます。貴重なご意見でした。

どう情報発信していくかを意識することはいいと思います。

他にはございませんでしょうか。

<委員>

基本方針4の広域観光・国際観光ということで万博やIR、そのあたりを意識した国際観光にどういう呼びかけをしていくのが大事だと思います。オリンピックは来年ですし、今年もラグビーワールドカップと非常に関西方面に目を向ける海外の人も多いと思います。実際には新しいイベントとして、万博の記念で舞洲に花火をあげることを計画されるというお話も聞いています。それに向けても何か推進していけるようにしていければと思います。

<委員>

少し万博のお話も出ていましたが、いのちかがやく未来社会の共生というところで健康や安全な食、自然環境でのミーティングのような、ここでしか体験できないウェルネスなどを意識してもよいのではないのでしょうか。

<会長>

ここでしか体験できないようなメニューを展開できたらよいなと思います。

<委員>

媒体の部分というところでは、今現在かんぼの宿は全国にあるが、今年度中に韓国語と中国語のホームページを考えていこうということになっています。各施設の案内板にも韓国語と中国語を表記するとか、Wi-Fiやシャワー設備の拡充など環境の整備もあわせて進めている状況でございます。

基本戦略4のここが一番大事だと思います。富田林にお客様がきてくださることはもちろんですが、歴史的な観光となると南河内全体に広がってきますので、今少し話題になっております古墳などの歴史を訪ねるとなると、南河内でタイアップして、富田林に来て

いただければ「富田林のさらに隠れた所がありますよ」とルート案内できると思います。

<会長>

ありがとうございます。

たしかに、歴史というとらえ方をしたら、富田林市内ではおさまらないと思います。

<委員>

今回この骨子案、アウトラインとしてはよくできていると思いますが、先にコンセプトを決めたほうが良いと思います。富田林のファンをつくることをもう少し深く考えると、富田林のアクセスのプランを考えていけるのではないのでしょうか。メインターゲットも探しますが、来たことがあるファンを分析して定着してもらほうが良いのではないのでしょうか。

インバウンドについては、データが少ないように思います。前回はオーストラリアのデータがありましたが、もっとデータを活用してほしいと思います。

富田林市に古墳があり、インターネットで「古墳」と調べると誰かは分かりませんがたくさん見つかります。以前から富田林の古墳展を考えていまして、出てくる副葬品の貸し出しについては調整中ですが、歴史マニアにとってはとてもよいと思います。イベントの時期は百舌鳥古市古墳群の登録と近くなっていますが、8月末の寺内町燈路の日から1週間程度を考えています。

<会長>

インバウンドについては、分析する数値が足りないという実感があります。ビジョンの中に、計画期間中に分析も引き続き進めていくという方向が良いのではないのでしょうか。

達成したいこと、ファンをつくるというのは分かりやすくていいのではないかと思いますし、コンセプトがあると進めやすくなるかもしれません。

他にどうでしょうか。なければ、議題3のその他に進めさせていただきます。

議題3 その他

<事務局>

今後の予定について申し上げます。次回の策定委員会は7月下旬の予定です。開催案内は改めてお送りいたします。

<会長>

ご意見・ご質問なければ以上で終了させていただきます。

多数のご意見ありがとうございました。十分に生かして取り組みを進めていきたいと思ひます。これで議事を終了します。

<事務局>

和泉会長、ありがとうございました。委員の皆さまも貴重なご意見をありがとうございました。観光ビジョンは策定されたと同時にスタートしていくと思ひています。皆さんと頑張っていきたいと思ひますので、引き続きよろしくお願ひいたします。

